

心の健康と
精神障害者への支援

精神障害者生活
訓練施設 萌木
施設長 武津 美樹



私の職場と住まいのある三浦市は、自然が豊かで、海・人・風がとても温かい街です。私は、「精神障害者生活訓練施設萌木」という精神障害者の社会復帰を支援する入所施設に勤めています。また、地域の支援者・当事者の皆様とNPO法人「ぴあ三浦」を設立し、精神障害者の地域生活支援や、私も含めた市民の心の健康の普及啓発活動なども行っています。

「精神障害」と聞くと少し戸惑われる方も多いかもしれません。目に見えない病気であるため、どのように対応をすればよいのかとよくご相談を受けます。そういうときは、まず「いちばん戸惑っているのは当事者なんですよ」とお話させていただいています。障害が目に見えないということはご本人にとっても同じで、症状の変化がとてもわかりづらく、また周囲にも伝えづらいところがこの障害の特徴なのです。

少しでもこの病気や障害を理解される方が増えて、精神障害を持っている方やそのご家族が当たり前前に安心をして過ごせる社会がやってくることを日々願ってやみません。

障害者が安心して暮らせる街づくりはすべてのひとが安心して暮らせる街づくりであると思います。未熟者の私は、地元のボランティアや人生の先輩方に教わることが多く、当事者から励まされることも多々あります。今後もささやかではありますが、「人とひと」とのつながりの中で豊かな街づくりの実現を前進させていきたいと思っています。

り、休日の過ごし方だったり、仕事をきちんとこなすための生活面での支援も必要になります。また仕事のことに限らず、悩みごと全般への対応により、本人の働く意欲の維持を支えることが、「定着」につながります。

しかし、「本人がどう生活しているのか様子はとても気になりませんが、これまで施設から就職したすべての方を、就労後も就労前も同じように生活支援を行うというのは、ジョブコーチ一人だけでは

不可能」と宇都木さんが話すように、ジョブコーチが対応できる範囲には限界があります。

そこでアガペセンターでは第二・第四土曜日を、就職した利用者が自由に集まれる場として開放しています。情報交換をしたり一緒に食事をしたりなど本人たちの息抜きの場としてはもちろん、ジョブコーチにとっても彼らと顔を合わせて近況が確認でき、時にはアドバイスもできるそうです。ワークアシスト仲町台の松尾さ

んも、就労支援と生活支援とは一体だとして、「家族をはじめ、ヘルパーやグループホームの職員など、本人の生活にかかわる人を集めネットワークをつくり、情報を共有して本人の就労の定着を支えていきたい」と、ジョブコーチ側から働きかけをしようと考えています。

◇ ◇ ◇
障害のある方の就労支援では、より「定着」を図っていくために、就

労後の支援の連続性が求められる。また、助成制度などの期間に関係なくジョブコーチが柔軟に活動できるように支えるしくみをつくることも欠かせません。
生活の一部に就労があり、ジョブコーチを含め、生活全体にかかわる方がネットワークをつくり、障害のある方の生活全体を支えていくことが、就労の定着につながるのではないのでしょうか。